

令和7年度第1回長浜市地域包括支援センター運営協議会
会議録(要点録)

日時:令和7年7月10日(木)午前10時~
会場:長浜市役所5階5-B会議室

1. 出席者

①出席委員(順不同)

森上会長、香水委員、橋本牧委員、小倉委員、岩根委員、小林委員、田中委員、
橋本文委員、西川委員、清水委員、喜多委員

②欠席委員(順不同)

堀口委員

③地域包括支援センター

平尾社会福祉士、川崎所長、北川所長、丸岡所長、沢田所長

④生活支援コーディネーター

福本副主幹

⑤出席職員

健康福祉部 山口部長、
長寿推進課 河瀬課長、星野課長代理、木下副参事、谷口係長、山岸主幹、土田主査

2. 傍聴者

なし

3.審議事項

(1) 令和6年度長浜市地域包括支援センター実績報告

事務局 委員	説明 総合相談件数のところで複合的課題にある世帯支援が増加しているとの報告だったが、支援内容や相談内容に変化があるのか教えていただきたい。
事務局	精神疾患や知的しょうがいがある息子や娘と同居するケース、介護に必要なお金のやりくりが上手にできないケースなど、高齢者の方のみが問題となるものだけではなく、しょうがい福祉の分野や権利擁護・経済面の問題が絡まっているケースなど様々なケース支援にあたっている。
委員	「複合的課題」に含まれるケースには、ヤングケアラーの事例もあるか？
事務局	昨年度、小学5年生から中学1年生を対象として、市教育委員会と市の家庭児童相談室が合同で調査が行われた。 困りごとを抱えている子どもがいる場合、可能な範囲で名前を教えてもらったが、我々大人が考えるヤングケアラーとは少し違うようなところもあった。 ヤングケアラーの問題についてはまだまだ周知が必要な段階だととらえている。 一方、現場では部署をまたいだ対応が必要であり、逐一連携をしながら対応を行っている。
神照郷里地域包括支援センター	当センターが対応した例として、50歳代のALSの母・高校生の長男の世帯がある。母に介護保険サービスが入ったときに、ケアマネも連携しながら、長男の大学進学という目標を含めて支援を行った。 次に、20歳代の孫が介護しているケース。孫は、仕事を制限しながら介護をしていたため、そのレスパイト支援を組み込みながら支援を行なったケースがある。
会長	以前は何か所も窓口を回らないといけないことがあったが、今はひとつの窓口で相談したら、他の部署と連携して対応いただいているということではよろしいか？
事務局	どの窓口に来ていただいたとしても、関係部署が連携しながら支援にあたる体制が整っている。

(2) 令和 7 年度長浜市地域包括支援センター取り組み内容

事務局 各センター	説明 説明 資料訂正：P 25 ②介護支援専門員を対象とした研修会の開催 7/9→12/4 資料訂正：P 26 外国人高齢者と支援者との意見交流会→外国人高齢者の支援者との意見交流会
委員	ケース対応の中で、ケアマネ交代や困難ケースが増えているとのこと。 南長浜地域包括支援センターでも、ケアマネジャーだけでは抱えられないケースが増えているとおっしゃっていたが、どのような対応をされているか、またどのように乗り切っておられるのか？
南長浜地域 包括支援セ ンター	ケアマネジャーだけで抱えきれないケースは多々あり、最近ではカスハラの問題も感じるようになってきたが、ケアマネジャーと一緒に話を聞いて対応していくことを基本としている。 また、支援体制としてケアマネジャーは本人対応、センターは家族への対応と、困難度に応じ役割分担しているケースもある。
会長	カスハラの話が出たが、医療機関でもペイハラという言葉があって、思い通りにいかないと暴言を吐いたりされる方がいる。 その対策として、暴言や暴力があった場合はただちに警察に通報しますという大きなポスターを病院に貼っているが、介護の現場ではもっとこのようなケースがあると想像され、支援者を守っていくことも大事な業務である。
委員	ハラスメントが原因でケアマネジャーが交代するケースもあると思われる。 これはハラスメントと客観的に判断ができるところや、それに対するフォローなどがあってほしいと思うが、その点はいかがか？
神照郷里地 域包括支援 センター	利用者から、ケアマネジャーやヘルパーへの要求が大きく、また攻撃的な要求といった場合、ケアマネジャーの変更・ヘルパー事業所の撤退が続くケースもある。 長寿推進課や生活保護のCWなど、その利用者の担当機関と連携して対応することもある。 また、こうした対応に関して、ケアマネジャーのシャドウワークにつながっている可能性もある。
委員	センターの存在や役割については、周知されているかと思うが、南長浜地域包括支援センターがおっしゃっていた、地域の方から相談が遅くなる要因をどのように考えておられるか。

南長浜地域 包括支援セ ンター	昨日、認知症の高齢者が行方不明になられた事例があったが、午前 11 時に奥さんが気付かれたものの、相談に来られたのが午後 4 時くらいだった。家族が自分で探してだめだったから、ようやく相談に来られたもの。 多くの事例は、まず家族が自分たちで何とかしようとされてしまうこと、相談をためらってしまわれることが多く、スムーズにつながらない原因の一つかと思われる。
委員	他のセンターでも、相談の早期化という文言があると思うが、中には、地域の関係者が把握しているにも関わらず、つながりがあるのに相談に至らないケースの存在が気になった。
湖北高月地 域包括支援 センター	出前講座などにおける実感ではあるが、自分の居住地の相談先を知っておられたのは、4 割程度と感じている。相談窓口がわからなかったという方や、まだまだ介護に縁がない方は聞き流されているであろうし、相談するタイミングを迷っている方、家族が介護をするのは当たり前という考え方が根強いように思われる。
委員	西黒田地域で、生活支援団体の役員をしているが、当地域は、認知症の症状が進行してからでないと、相談がないケースがあるとセンターから聞いている。 何とかしなければと思って、見守り会議を実施しており、個別にリスクがある人について、誰が見守りを担当するのかといった検討を年 2 回会議を実施している。 こうした取り組みを通して、我々も地域の実態がある程度わかるようになった。 そういう意味で、いろんなことを話し合いながら自分たちの地域を見つめなおすことで、地域の中でも変わっていくのではないかと思う。

(3) 地域ケア会議内容の事例紹介 地域専門職連携会議（西浅井地域）

事務局	地域包括支援センターの業務は、相談やケアプランの作成だけではなく、地域づくり事業も重要な業務である。 本市では、市内を 15 の地域に分けて、地域専門職連携会議を設置し、医療・福祉の専門職がチームを組み、地域の声を聴きながらともに地域課題の解決について取り組んでいる。 今回は、令和 6 年度の西浅井地域における活動を例に発表させていただく。
木之本余呉 西浅井地域 包括支援セ ンター	説明
会長	とても楽しそうな健康づくりで非常に良いなと思った。

	地域のイベントで収集された血圧測定の結果であるが、循環器内科医としては、その散布図が高いほうに分布しており、しかも強烈に高いなと思った。測定と同時に減塩の話など啓発されているか？
木之本余呉 西浅井地域包 援センター	減塩のことは日ごろから、健康推進員さん等、地域のイベントで説明いただいている。

(4) 地域ケア会議内容の事例紹介 個別ケア会議を活用した例

事務局	地域包括支援センターに寄せられる相談の中には、センターだけで解決できないものもあり、地域では民生委員さんをはじめとする支援者の方が、孤軍奮闘されているケースもある。 こうした課題のあるケースについて、各センターでは、関係者にご出席いただき、専門職と地域の方が情報共有をしながらチームで対応することで、解決に向けた意見交換を行っている。 今回は、浅井びわ虎姫地域包括支援センターから、認知症の地域内の困りごとと行動や予定を忘れて外出されてしまう方の事例について、報告させていただく。
浅井びわ虎 姫地域包括 センター	説明
会長	住み慣れた家で住み続けることは理想かもしれないが、事例のような状態になると施設入所も必要になってくる。 高齢者の独居世帯が進んでいくと、こうしたケースの増加も予測され、施設の充実が必要になってくるのではないかと考えられる。